

第 107 回古民家歴史部会歴史探訪

「新・東海道の宿場探訪シリーズ・第 2 回」

ふじやま公園古民家歴史部会・長谷川記

平成 28 年 5 月 4 日(水) 「品川宿」

*集合：(京急)上大岡駅(改札口) 8 時 50 分厳守同時出発(今回も早い時間です。)

(1)行程：下記「探訪先」と同じ。

(2)食事場所：自由行動

(3)探訪先：「神奈川の宿場を歩く」、「東海道五十三次ハンドブック」等を参考にした。
(京急)上大岡駅から (京急線)品川駅・高輪口下車

- ① JR 品川駅創業記念碑：新橋―横浜間開通が最初とされているが、実は半年前の明治 5 年(1,872 年)5 月 7 日、新橋～品川間で仮営業されていた。この碑はその記念碑。そばへ近づけないため、外から眺めるだけ。
- ② 問答河岸由来碑：三代将軍家光と沢庵和尚が、この河岸で問答をした由来が刻まれている。
- ③ 法 禅 寺：浄土宗・芝増上寺の末寺。本尊は阿弥陀如来。天保の飢饉で流民が溢れ、この寺に 500 人余りを埋葬したという。
- ④ 本陣跡(聖蹟公園)：品川宿の本陣は、江戸後期には経営が苦しくなり、火災の被害などもあって、品川宿・3 宿が共同で運営する 135 坪の建物が建っていたが、明治元年(1,868 年)、明治天皇が初めて江戸城入りした時、行在所(あんざいしょ)となったが、その後取り壊され、現在は「聖蹟公園」となっている。
- ⑤ 品川 神社：北品川宿・歩行新宿の鎮守。境内には、品川宿の富士塚講中によって築かれた「品川富士」と呼ばれる富士塚があり、神社の裏手には、自由民権運動指導者・板垣退助の墓がある。
- ⑥ 東 海 寺：三代将軍家光が、沢庵和尚のために建立、寛永寺・増上寺と並び称された巨刹であった。現在の東海寺は旧塔頭玄性院跡に建てられている。
- ⑦ 荏原 神社：江戸時代は品川の竜神様として、雨乞いに神徳があるとされた南品川宿の鎮守様で、南の天王様とも呼ばれた。
- ⑧ 品 川 橋：目黒川に架かる橋で、南北宿場の境界。別名「境橋」とも呼ばれた。
- ⑨ 品川寺(ほんせんじ)：通称「品川の観音様」と呼ばれる真言宗の寺。
- ⑩ 海 運 寺：曹洞宗の寺。「品川の荒神様」と呼ばれ、荒神堂に祀る千体荒神で有名。
- ⑪ 東品川公園：わが国最古の洋式灯台「品川灯台」(台場にあったが、現在は愛知県犬山市の明治村に移築)のレプリカがある。

—(京急)青物横丁駅―上大岡駅(解散)

東海道歴史探訪2

品川駅～京急青物横丁駅

2016.5.4



② 問答河岸



かつて海岸先に波止場があり、3代将軍徳川家光が東海寺に入るとき、沢庵和尚が迎え出て問答をした故事にちなむ。(東海寺は⑥)

将軍「海近くして東(遠)海寺とはこれ如何に」
和尚「大軍を率いても将(小)軍と言うが如し」



品川 安藤広重

③ 法禅寺



芝増上寺の末寺、門前には「品川小学校発祥之地」と記した碑があり、品川区で一番古い 小学校は明治7年に誕生した。

④ 本陣跡



江戸時代は、大名が宿泊する本陣が置かれた。明治天皇が休憩した行在所としても使われたことから「聖蹟」の名が残る。

⑧ 品川橋



橋上に樹木を植えた庭のある日本では珍しい橋の一つです。

dimson



江戸六地藏 (銅造地藏菩薩坐像)



イチヨウの樹 (品川区認定天然記念物二号)
樹齢300年。



平蔵地藏

鈴ヶ森刑場で番人をしながら、交代で三人で乞食をしていた平蔵さん。ある日大金を拾い、正直に届けました。ところが、仲間二人から、その大金さえあれば乞食から抜け出せたのにと、小屋から追い出され、凍死してしまいます。憐れんだ大金の落とし主が平蔵さんの遺体を引き取り、お地藏様を立て、供養をし続けました。



日本最古の洋式灯台 (5/6のレプリカ)
本体は明治村にあり



台所の神様である千穂荒神王を祀る。



本堂内、天井。火消纏の紋章。

dimson